

教職員の皆さんへ（令和5年度 年度始め学長挨拶）

新年度の始まりに際しまして一言ご挨拶申し上げます。

寒さが緩んできたと思ったら、一気に春になりました。キャンパスもまた緑豊かになり今年も多くの新入生を受け入れることができました。学生達の若さ溢れるキャンパスで働けること、また、一緒に勉強、研究ができるのは大変嬉しいことです。新学期を新たな気持ちで始めたいと思います。

昨年度は、理事・副学長をはじめ教職員の皆様方のご尽力により、①埼玉大学 Action Plan2022-2027 の策定 ②大学評価体制の構築 ③教養・スキル・リテラシー教育の充実 ④戦略研究センター・社会変革研究センター・ダイバーシティ推進センターの設置 ⑤女子栄養大学との包括連携協定の締結等の成果を上げることができました。新型コロナウイルス感染症の感染拡大が何度も起きる中で、本学の機能強化に取り組んでいただいたことに、この場を借りて深く感謝を申し上げます。

ご承知のように、昨年度から第4期中期目標期間がスタートしました。今後、本学の機能強化のために中期計画を着実に実行していかなければなりません。加えて、第4期は、中期目標の達成状況が第3期以上に厳しく評価されることになっています。毎年度の計画達成状況評価を厳正に行い、4年目終了時には計画が概ね達成できるよう進捗状況を確認していきたいと思います。ご協力のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。

さて、早いもので学長に就任して3年が過ぎ、6年の任期を折り返しました。私は、3年前の学長選考会議において、本学の機能強化のために行う取り組み目標として、①教育の質保証を含む教育改革、②戦略的研究部門の見直しと研究の活性化、③他大学との連携強化、またその基盤として①「All in One Campus at 首都圏埼玉」の実質化、②教職協働体制の構築を挙げました。これらの目的達成のために、教育の質保証も含め本学の活動を評価・審議する大学評価委員会の設置、新たな戦略的研究領域の選定、県内公立、私立大学との包括連携協定締結による共同研究及び単位互換の推進等を行ってきました。今後も本学の機能強化のために様々な施策を実行してまいります。また、その基盤となる、「All in One Campus at 首都圏埼玉」の実質化のために教育組織と教員組織の分離、いわゆる「教教分離」を進めて全学の協力体制を構築したいと思います。全ての学部・研究科が1キャンパスにある利点を活かして、学部横断的な教育のみならず、研究においても分野横断的な融合研究の進展も図りたいと考えています。一方、教員が教育研究等に専念できる体制の構築のために教職協働の実質化を目指します。教員と職員の協力のもとで新たな企画を進められる仕組みや、職員が様々なレベルで大学運営にも参画できる体制を作っていきたいと思います。

本年は本学のルーツである埼玉県改正局が小学校教員養成を始めてから150年、また、もうひとつのルーツである旧制浦和高等学校開校から101年目の記念すべき年になります。創基150周年を祝うために、むつめ祭と同時開催のホームカミングデーに関連事業をいくつか計画しておりますので、ぜひご参加いただければと存じます。一方、新制大学として埼玉大学が設置されてから74年になります。この間、9万人を超える学生が卒業、修了し、社会の第一線で活躍しています。このことは、本学が長い間、教育や研究に真摯に取り組んできた成果を示すものであり、大いに誇るべきことです。しかし、一方、残念ながら、本学の持つ高いポテンシャルや教育・研究の成果が社会にうまく伝わらず、本学のプレゼンスが期待通りに上がってきていないのも事実です。本学がさらに機能強化を進め存在感を高めるためには、教育、研究、社会貢献活動の充実に加えて、

地域社会との結びつきを強めることが必要です。地域・社会との連携をさらに深め、「埼玉大学があってよかった」と言ってもらえる大学を目指していきたいと考えます。

今年度もいよいよ始まります。学生・教職員の皆さんと協働しながら、今後の3年間を見据えつつ、本年度の教育、研究、社会貢献活動の一層の活性化を進めていく所存です。ご理解とご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

令和5年4月
埼玉大学長 坂井 貴文